

課程 / Program	後期課程	開講年度・学期 / Semester	2024年度 1期
授業区分	週間授業	合併講義等	
授業名 / Subject	特殊講義Ⅰ 英語学・英語教育学		

授業担当教員/Faculty	高梨 芳郎
----------------	-------

授業概要並びに到達目標 / Course Outline and Goals	<p>この講義では、博士後期課程における学修の基礎として、人文・社会科学研究、英語学・英語教育学研究の動向と考え方、科学的研究と研究者の在り方について学び、その基礎の上に、英語教育学研究に必要な研究法の知識・技能と専門的知識を修得する。研究法については、量的研究法・質的研究法等について理解を深め、研究法の学修で得た知識を参考にして、第二言語修得、言語技能、評価に関する英語教育研究の到達状況と成果について学修して、自律的な研究に進むためのコースワークを行う。</p> <p>初回から第13回までと第15回の授業は対面で行う。第14週はオンライン（Google Meetでの同時双方向型）で行う。受講登録をした受講生には大学の電子メールで授業開始前にGoogle MeetのURLを連絡する。</p>
--	--

授業計画 / Schedule	<p>第1回 人文・社会科学研究の動向と考え方  第2回 英語学・英語教育学研究の動向と考え方  第3回 研究における科学と研究倫理の在り方  第4回 研究法（量的研究）の動向と課題  第5回 研究法（質的研究）の動向と課題  第6回 第二言語修得研究の考え方  第7回 第二言語修得研究の研究法と研究事例  第8回 第二言語修得研究の成果と課題  第9回 第二言語教育における言語技能についての考え方  第10回 第二言語教育における言語技能の研究法と研究事例  第11回 第二言語教育における言語技能研究の成果と課題  第12回 第二言語学修における評価の考え方  第13回 第二言語学修における評価研究の方法と研究事例  第14回 第二言語学修における評価研究の成果と課題  第15回 研究課題の整理と考察</p>
-----------------	--

成績評価基準 / Assessment criteria	授業中の取り組み、課題への対応状況、レポートの成績を総合的に判断して行う。
------------------------------	---------------------------------------

教科書（参考書） / Textbook/Reference Materials	『学術の動向』2018年10月号 公益財団法人 日本学術協力財団 「英語学・英米文学・英語教育 各界の回顧と展望」『英語年鑑』研究社 2019年 『科学の健全な発展のために』日本学術振興会 2015年 Brown, H.D.(2014), Principles of Language Learning and Teaching(6th ed.) Pearson Education, Inc.
---	--

課程 / Program	後期課程	開講年度・学期 / Semester	2024年度 1期
授業区分	週間授業	合併講義等	
授業名 / Subject	特殊講義 I 英語学・英語教育学		

授業担当教員/Faculty	佐藤 一嘉
----------------	-------

授業概要並びに到達目標 / Course Outline and Goals	この講義では、博士後期課程における学修の基礎として、人文・社会科学研究、英語学・英語教育学研究の動向と考え方、科学的研究と研究者の在り方について学び、その基礎の上に、英語教育学研究に必要な研究法の知識・技能と専門的知識を修得する。研究法については、量的研究法・質的研究法等について理解を深め、研究法の学修で得た知識を参考にして、第二言語修得、言語技能、評価に関する英語教育研究の到達状況と成果について学修して、自律的な研究に進むためのコースワークを行う。
--	---

授業計画 / Schedule	<p>第1回 人文・社会科学研究の動向と考え方 (Introduction to Research methods)</p> <p>第2回 英語学・英語教育学研究の動向と考え方 (Introduction to linguistics and applied linguistics)</p> <p>第3回 研究における科学と研究倫理の在り方 (Research ethics)</p> <p>第4回 研究法 (量的研究) の動向と課題 (Quantitative methods)</p> <p>第5回 研究法 (質的研究) の動向と課題 (Qualitative methods)</p> <p>第6回 第二言語修得研究の考え方 (Introduction to SLA)</p> <p>第7回 第二言語修得研究の研究法と研究事例 (Research methods in SLA)</p> <p>第8回 第二言語修得研究の成果と課題 (Research issues in SLA)</p> <p>第9回 第二言語教育における言語技能についての考え方 (Second language teaching)</p> <p>第10回 第二言語教育における言語技能の研究法と研究事例 (Research methods in SLT)</p> <p>第11回 第二言語教育における言語技能研究の成果と課題 (Research issues in SLT)</p> <p>第12回 第二言語学修における評価の考え方 (Language assessment)</p> <p>第13回 第二言語学修における評価研究の方法と研究事例 (Research methods in LA)</p> <p>第14回 第二言語学修における評価研究の成果と課題 (Research issues in LA) (オンライン授業)</p> <p>第15回 研究課題の整理と考察 (Summary)</p>
-----------------	--

成績評価基準 / Assessment criteria	授業中の取り組み、課題への対応状況、レポートの成績を総合的に判断して行う。
------------------------------	---------------------------------------

教科書 (参考書) / Textbook/Reference Materials	教科書は使用しない。資料を配付する。 参考書については初回の授業で説明する。
--	---

課程 / Program	後期課程	開講年度・学期 / Semester	2024年度 1期
授業区分	週間授業	合併講義等	
授業名 / Subject	特殊講義 I 英語学・英語教育学		
授業担当教員/Faculty	Duane Kindt		
授業概要並びに到達目標 / Course Outline and Goals	This course aims at developing a PhD student's basic understanding of linguistics and applied linguistics, in particular, Second Language Development (SLD) and Second Language Teaching (SLT). Moreover, a student will be expected to improve their research skills using quantitative and qualitative methods in a mixed methods study. Finally, a student will learn about methods for defining and assessing SLD so that a student will be able to develop his/her own research.		
授業計画 / Schedule	第1回 人文・社会科学の動向と考え方 (Introduction to research methods) 第2回 英語学・英語教育学の動向と考え方 (Introduction to applied linguistics) 第3回 研究における科学と研究倫理の在り方 (Research ethics) 第4回 研究法 (量的研究) の動向と課題 (Quantitative methods) 第5回 研究法 (質的研究) の動向と課題 (Qualitative methods) 第6回 第二言語修得研究の考え方 (Introduction to second language development) 第7回 第二言語修得研究の研究法と研究事例 (Research methods in SLD) 第8回 第二言語修得研究の成果と課題 (Research issues in SLD) 第9回 第二言語教育における言語技能についての考え方 (Second language teaching) 第10回 第二言語教育における言語技能の研究法と研究事例 (Research methods in SLT) 第11回 第二言語教育における言語技能研究の成果と課題 (Research issues in SLT) 第12回 第二言語学修における評価の考え方 (Language assessment) 第13回 第二言語学修における評価研究の方法と研究事例 (Research methods and LA) 第14回 (Online) 第二言語学修における評価研究の成果と課題 (Research issues in LA) 第15回 研究課題の整理と考察 (Summary) *The 14th class will be taught online.		
成績評価基準 / Assessment criteria	授業中の取り組み、課題への対応状況、レポートの成績を総合的に判断して行う。		
教科書 (参考書) / Textbook/Reference Materials	教科書は使用しない。資料を配付する。There is no textbook. Materials will be distributed. 参考書については初回の授業で説明する。Reference sources will be recommended from the first class.		

課程 / Program	後期課程	開講年度・学期 / Semester	2024年度 1期
授業区分	週間授業	合併講義等	
授業名 / Subject	特殊講義Ⅰ 日本語学・日本語教育学		

授業担当教員/Faculty	坂本 正
----------------	------

授業概要並びに到達目標 / Course Outline and Goals	この講義では、博士後期課程における学修の基礎として、日本語学・日本語教育学研究の動向と考え方、科学的研究と研究者の在り方について学び、その基礎の上に、日本語学・日本語教育学研究に必要な研究法の知識・技能と専門的知識を修得する。研究法については、量的研究法・質的研究法等について理解を深め、研究法の学修で得た知識を参考にして、日本語学・日本語教育研究の到達状況と成果について学修して、自律的な研究に進むためのコースワークを行う。
--	---

授業計画 / Schedule	第1回 オリエンテーション 第2回 研究における科学と研究倫理の在り方 第3回 引用の仕方と参考文献の書き方 第4回 日本語学研究の基礎概念 第5回 日本語学研究と生成言語学 第6回 日本語学研究と認知言語学 第7回 日本語教育学研究の動向と考え方と基礎概念 第8回 研究法1（量的研究法） 第9回 研究法2（質的研究法） 第10回 研究法3（混合研究方法） 第11回 第一言語獲得と第二言語習得 第12回 第二言語習得研究の歴史 第13回 第二言語習得研究の研究手法 第14回 第二言語としての日本語の習得研究の現状と課題 第15回 まとめ 第15回 なし
-----------------	--

成績評価基準 / Assessment criteria	授業中の取り組み、課題への対応状況、レポートの成績を総合的に判断して行う。
------------------------------	---------------------------------------

教科書（参考書） / Textbook/Reference Materials	教科書は使用しない。資料を配付する。 参考書 市川伸一（編）(2019)『教育心理学の実践ベース・アプローチ』東京大学出版会 酒井邦嘉(2019)『チョムスキーと言語脳科学』集英社インターナショナル 近藤ブラウン妃美・坂本光代・西川朋美(2019)『親と子をつなぐ継承語教育 日本・外国にルーツを持つ子ども』くろしお出版
---	--

課程 / Program	博士後期課程	開講年度・学期 / Semester	2024年度 1期
授業区分	週間授業	合併講義等	合併授業
授業名 / Subject	特殊講義 I グローバルコミュニケーション		

授業担当教員/Faculty	鈴木 茂
----------------	------

授業概要並びに到達目標 / Course Outline and Goals	博士論文の執筆状況に応じて、論文執筆者の報告と参加者の討論を中心に進めます。 学位論文の水準を満たす独創的な論文の作成を目指します。
--	---

授業計画 / Schedule	博士論文の進捗状況に応じて、章・節単位に執筆者に報告してもらいます。スケジュールは論文執筆のペースに合わせて ます。
-----------------	---

成績評価基準 / Assessment criteria	毎回の授業での報告と討論をもとに評価します。
------------------------------	------------------------

教科書（参考書） / Textbook/Reference Materials	伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣、2001年 小熊英二『論文の書き方』講談社現代新書、2022年 久米郁男『原因を推論する』有斐閣、2013年 佐藤郁哉『質的データ分析法』新曜社、2008年 高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書、1979年
---	---

課程 / Program	後期課程	開講年度・学期 / Semester	2024年度 1期
授業区分	週間授業	合併講義等	なし
授業名 / Subject	特殊講義 I グローバルコミュニケーション		

授業担当教員/Faculty	大岩 昌子
----------------	-------

授業概要並びに到達目標 / Course Outline and Goals	<p>博士後期課程における学修の基礎として、科学的研究と研究者の在り方について深く学ぶ。そのうえで、人文・社会科学研究、音声・音声習得研究の動向を見極め、音声習得研究に必要な研究法の知識・技能、および専門的知識を修得する。研究法については、量的研究法・質的研究法の両面から理解を深めていく。第二言語修得、音声習得、音声評価に関する研究の現況と成果について学修し、自律的な研究を行うことができるようになる。</p> <p>第14週のみZOOMによるオンライン授業となる。 受講登録をした受講生には大学の電子メールで授業開始前に連絡する。</p>
--	---

授業計画 / Schedule	<p>第1回 ガイダンス、人文・社会科学研究の動向と考え方  第2回 音声習得研究の動向と考え方  第3回 研究における科学と研究倫理の在り方  第4回 研究法(量的研究)の動向と課題  第5回 研究法(質的研究)の動向と課題  第6回 音声習得研究の考え方  第7回 音声習得研究の研究法と研究事例  第8回 音声習得研究の成果と課題  第9回 中国語音声の特性の検討  第10回 日本語音声の特性の検討  第11回 成人の音声習得に関する研究事例  第12回 成人の音声習得に関する分析と評価  第13回 成人の音声研究に関する課題  第14回 発表  第15回 まとめ</p>
-----------------	---

成績評価基準 / Assessment criteria	授業中の取り組み、課題への対応状況、レポートの成績を総合的に判断して行う。
------------------------------	---------------------------------------

教科書(参考書) / Textbook/Reference Materials	<p>授業で配布する。  また、音声分析ソフト(種類は任意)を使用する。</p>
---	--